

## FD/SD活動の推進

開催セミナー	第1回全学FD/SD研修会
日時	平成30年10月31日(水) 13:30～14:40
場所	5230演習室
参加者	教職員15名
テーマ	「自主学習」を促すには？

**内容**

今年度の第1回全学FD/SD研修会では、講義科目やアクティブ・ラーニングを取り入れた科目の教材づくりや教材の活用が、受講生の事前学習・事後学習を促すことができるのか、という疑問を解消するために、中井歩氏（法学部教授）より、『「自主学習」を促すには？』をテーマに、学生の自主学習促進のために試みた事前学習ツールやフィードバックシステムのアイデアと、その運用結果として得られた成果と課題の報告が行われました。

その後、グループに分かれ、自主学習の促進に関する意見が交わされました。

### 参加された教員の声

- ・学生との信頼関係づくりと、学びの楽しさや効果を共有することが大切だと感じた。
- ・学生が面白がってくれるにはどうすればいいかを考えることが必要だと思った。



## 平成30年度教育プログラム支援制度採択プログラム

京都産業大学では、教育の質向上と教育改革の推進のため、試行的な教育プログラムに支援を行う「教育プログラム支援制度」を運用しています。平成30年度は次のテーマで公募を行い、6つのプログラムが採択されました。

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| ① アクティブラーニング型授業の導入・推進      | ⑤ 高大接続・高大連携プログラムの充実  |
| ② 初年次教育プログラムの充実            | ⑥ TAやSAを活用した学部教育の充実  |
| ③ 同一科目名複数開講クラスの運営          | ⑦ グローバル人材育成にかかる教育の充実 |
| ④ 企業、自治体等との連携による教育プログラムの開発 | ⑧ ゼミ活動の活性化           |

取組名称	テーマ	申請代表者
課題解決型授業におけるメタ認知能力測定のための試案作成	①	経営学部 伊吹 勇亮 准教授
学習者相互評価モバイルアプリによるプレゼンテーションの促進	①	文化学部 ゴーベル・ピーター 教授
初年次アクティブラーニング型授業の効果測定と評価基準の開発	①	全学共通教育センター 小山 治 准教授
共通教育ハテナソン授業の研究開発と実践の支援体制づくり	②	総合生命科学部 佐藤 賢一 教授
理工系コープ教育プログラムの発展	④	情報理工学部 荻野 晃大 准教授
京都すばる高等学校との情報系高大連携プログラムについて	⑤	情報理工学部 新實 治男 教授

(順不同)

CERADES News Vol.13 2019年2月発行  
 編集/発行 京都産業大学教育支援研究開発センター  
 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel:(075)705-1729  
 e-mail:kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL:http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html

# CERADES News

京都産業大学 教育支援研究開発センターニュース  
 セラデス ニュース



Vol.13  
Feb. 2019



### 第9期学生ファシリテータ 研修合宿を終えて



F工房では、学生ファシリテータ(以下、学ファシ)の募集・養成を行っており、12月1日、2日の二日間、「第9期学生ファシリテータ研修合宿」を行いました。この合宿では、初めて学ファシをする学生(以下、新規学ファシ)は「ファシリテーションのイメージを自分なりに掴む」、第8期から学ファシ活動を継続している学生(以下、継続学ファシ)は「自身の経験を新規学ファシにアウトプットすること」で、さらにファシリテーションへの理解を深める」ことを到達目標としました。

二日目、学ファシの様子やファシリテーションの理解度を見て、プログラムを急遽変更し、その結果、学ファシから出てきた疑問に対して学ファシ全員で考える時間を持つことができ、二日間のプログラムの中で最も深い学びになったのではないかと感じています。学ファシからは、「ファシリテータとは「司会進行のイメージだったが、実際は陰で支える役割」や「その場の状況の把握や、一人一人の心境など細かいところまで知る必要がある」などの声が上がりました。新規学ファシは「ファシリテーションとは何か」を少しずつ掴み、継続学ファシはファシリテータに対する理解が深まったのではないかと感じています。

私たちF工房スタッフは、どのようなフィールドでもファシリテータとして振る舞える学ファシ養成を目指しています。学ファシとの協働による授業運営・課外活動運営に興味のある方は、F工房までお問い合わせください！

F工房スタッフ 清水 菜未

### Contents

- p2 <学部との連携>  
F工房と現代社会学部の連携  
<FD/SD活動の推進>  
平成30年度新任教員研修会開催
- p3 <学部との連携>  
グローバルコモンズと経済学部の連携  
<FD/SD活動の推進>  
平成30年度新任教員研修会の感想
- p4 <FD/SD活動の推進>  
第1回全学FD/SD研修会の開催  
平成30年度教育プログラム支援制度採択プログラム

CERADES Newsは、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン制作している刊行物です。

CERADES(セラデス)は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

## F工房による 授業支援

F工房では、学内におけるファシリテーションの普及を目的に、ファシリテーション研修や、ファシリテーションを活用した授業等の設計・運営支援を行っています。今回は、平成30年度に実施した授業支援についてご紹介します。

### ～現代社会学部「基礎演習」、「プロジェクト演習Ⅱ」の事例～

現代社会学部開講科目「基礎演習」と「プロジェクト演習Ⅱ」では、学生がファシリテーションを学ぶことで今後の演習科目が活性化し、グループでの学びの効果が高まることを期待されていました。ファシリテーション研修を授業で実施した狙いや期待した効果は、「基礎演習」では「グループワーク等において初歩的なファシリテーションを実施することができる」こと、また「プロジェクト演習Ⅱ」では「我流ではなく専門的スキルとしてのファシリテーションを理解できる」ことでした。

今回F工房は、狙いに合わせて「マインドとスキルの理解」、「授業内でファシリテータを体験してもらい実践的に学んでもらう」ことを柱として授業を設計し、当日の授業を教員と協働で進めました。



#### 基礎演習

**授業目標：**「ファシリテーションとは何かというイメージを掴む」

**実施形態：**複数クラス合同で実施

**授業内容：**ファシリテータを体験し、その後話し合いの過程をふりかえる。具体的には、三つの選択肢の中からグループで一つだけ選ぶという話し合いの過程を、グループメンバーのうち1名がファシリテータとして支える体験をした後、ふりかえりでは、ファシリテータとして何が出来るかをグループで話し合う。

#### 学生の感想

- ・今まで話し合いは面倒だと思っていたけど、自分の意見を伝えることは楽しいと感じた。
- ・言葉の定義づけや目標設定によって話し合いの方向性が変わることに気づいた。

#### 担当教員の感想

**基礎演習：**F工房スタッフと協働して授業を進行したことや、履修者がファシリテーションを体験できたことは目新しさがあり、普段より興味をもって聞いていたように感じた。

**プロジェクト演習Ⅱ：**F工房スタッフが進行を担い、担当教員は観察役に徹することができたことで、普段は見逃してしまうような部分についても履修者にフィードバックをすることができた。

#### プロジェクト演習Ⅱ

**授業目標：**「我流のファシリテーションと基礎的なファシリテーションの差に気づく」

**実施形態：**複数クラス合同で実施

**授業内容：**ファシリテータを体験し、その後教員からのコメントを交えて話し合いの過程をふりかえる。具体的には、グループメンバー全員がファシリテータとなり、お題について話し合う過程を教員1名が1グループを観察した後、ふりかえりで教員がその様子をフィードバックする。

#### 学生の感想

- ・自分が普段行っているファシリテーションには抜けている点が多かったことに気づいた。
- ・周囲の意見を引き出そうと心がけたが、ふりかえりを通じて、実際には自分ばかり話す時間が生まれてしまっていたことに気づいた。

## FD/SD活動の推進－平成30年度 新任教員研修会開催－

第1回	日時	平成30年4月25日(水) 13:00～15:00	第2回	日時	平成30年6月6日(水) 12:30～14:30
	場所	ミーティングルーム2		場所	5401教室
	参加者	教職員28名		参加者	教職員21名
	テーマ	京都産業大学の教育の特色		テーマ	教員と学生間の対話の促進

本学では、新任教員が本学の教育や学生の特徴を理解し、他の教員との対話から気づきを得て今後の授業・教育活動に活かすことを目的として、毎年春学期に2回、新任教員全員を対象とした研修会を実施しています。

今年度の第1回研修会では、京都産業大学の教育の特色のほか、柴田佐代子氏(教学センター障害学生教育支援担当)、秋山豊和氏(情報理工学部教授)より、障害のある学生への対応と向き合い方、授業運営で工夫している点等についての実践事例が紹介されました。これらの話を手掛かりに、授業の運営方法などについて、新任教員が自らの疑問点や悩みも含めて、学部先輩教員らと意見交換を行いました。話題は、私語の減らし方、障害のある学生への対応、学生の学習意欲の向上方法、学生の授業への関心を引き出す方法など多岐に渡りました。

第2回研修会では、各教員が春学期に実施した本学の全学的な取組である「教員－学生間の授業に関する対話シート」から得られた情報を持ち寄り、学生からの意見や要望に対するフィードバック方法や学生の反応等について情報共有を行いました。その後、各教員の様々な経験を元に日々の講義の中で改善や工夫を重ねている点、講義の進め方や資料の作り方といった技術的な面や学生との向き合い方、教育への問題意識等、授業運営や学生との向き合い方を共に考える意見交換が活発に行われました。



## サガタリウス館グローバルcommons主催 英語ワークショップ

グローバルcommonsでは、学生への学習支援を目的に、ライティング、プレゼンテーション、スピーキングなどの英語スタディスキルや、TOEIC、IELTS等英語検定試験に関する英語ワークショップ(以下、WS)を定期的に行っています。今回は、授業の補助的なWSの活用事例を紹介します。

### 「国際交流セミナー」(経済学部開講科目)

担当教員：イケダ マリア 准教授、齊藤 健太郎 教授 履修者：16名

労働市場や社会保障に関する問題などについて、経済学の視点から考え、英語で報告を行う科目で、「英語でのプレゼンテーションができるようになること」が授業の到達目標の1つになっています。担当教員より履修者の英語コミュニケーションスキルの向上を目指しているとの相談があり、グローバルcommonsが実施しているWSについてご紹介し、履修者に以下のWSの参加を推奨していただきました。どのような科目で、どのようなスキルの向上を目指している学生が参加するかかわっていたため、履修者の参加状況等を担当教員に共有することができました。



#### ①Starting Presentations (5月～6月)

- 目的：**プレゼンテーションの構成、口頭発表時のポイントを掴み、簡単な英語でプレゼンテーションができるようになる。
- 内容：**講義形式による解説と発表の際にただ原稿を読むのではなく、キーワードを書いたメモで発表が出来るよう、実践形式の練習を実施し、最後に質疑応答の際に使えるフレーズを紹介。

#### 実施者の感想

実践形式の練習で前に出て発表する際、英語で発表する機会が少ないと回答していた学生も気後れせず発表できていた。

#### 参加者の感想

- ・プレゼンテーションのやり方、話し方を一から教えてくれて勉強になった。
- ・英語での質問の仕方、受け答え方、わからなかった時の言い方を学べたので、今後使えるように練習していきたい。
- ・実践的なプレゼンテーションの仕方を学ぶことができた。

#### ②English Writing (6月～7月)

- 目的：**プレゼンテーションの原稿作成時のポイントを掴み、英語で原稿が作成できるようになる。
- 内容：**9つのステップに分けた練習問題を使い、草稿を書く際のブレインストーミング方法、説得力のある文章にするためのコツ、校正の際のポイントを説明。

#### 実施者の感想

原稿の構成を把握し、練習問題に取り組みながら、つなぎ言葉を用いて序論、本論、結論の内容を英語で草稿としてまとめることができていた。

#### 参加者の感想

- ・文章を書く前にどうすれば書きやすくなるかを知れてよかった。
- ・英文の書き方をわかりやすく学べたので良かった。実際に書く時間があればもっと良かった。
- ・日本語でやるとなんでもないことでも、英語でやると難しいということを知ったが、それよりも自分の意見を早く出すことが大切だということを知った。

## 平成30年度 新任教員研修会の感想

### 新任教員から寄せられた感想

- ・障害学生への対応について組織的な対応と個別の事例を聞くことができ参考になった。
- ・授業で手を挙げない学生への対応など、他の先生も学習意欲を底上げさせたいが、同じ苦労をされていることが分かって、良い情報交換ができました。
- ・障害学生のニーズに対しては、他の学生に目立たない形で、ちゃんと把握していこうという姿勢が大切だと感じました。
- ・自分自身の課題が他の教員も持っていることを実感できた。また、学部による学生の性質や価値観の違いを知ることができた。
- ・授業の進め方、特に大人数での授業についての技術的なところが参考になった。

### 参加された先輩教員の感想

- ・学生気質が変化している中で教員もそれなりの対応が必要であると感じました。
- ・障害学生支援について、学部事務室を含めたコミュニケーション、ネットワークにのせることが大切だと改めて考えさせられました。
- ・外部の視点から見た「京都産業大学像」について。京都産業大学が他の大学と比較しても、様々なことに挑戦しようとする姿勢を取っており、それが大学全体の雰囲気にも影響を与えているということが分かった。
- ・大教室と小規模教室でのノウハウの違いがあり、新任教員はどちらかというと大教室に戸惑う事が多いように思う。
- ・新人教員の方々が、予想以上に教育やFDに抵抗なく驚きました。